

平成 27 年度 歴史民俗資料館の管理運営に対する評価票

所管課：教育委員会 地域教育課

評価対象期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

評価委員会開催日：平成 28 年 10 月 19 日・10 月 20 日

1 指定管理者

指定管理者	株式会社日立ビルシステム
指定期間	平成 23 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日（5 年間）
施設概要	発掘による埋蔵文化財や、市民から寄贈された農具、民具などの民俗資料が多くあることから、これらを収蔵し、展示、公開するとともに、長年にわたり伝えられてきた民話の紹介などイベントの開催やリーフレットの発行などにより、特徴ある郷土の歴史、文化をより深く理解し、誇りと親しみを感じてもらうことを目的とする。
指定管理料	10,273 千円（平成 27 年度）

2 管理運営の内容

項 目	27 年度の状況
運営状況	○平等利用のための手法 ・職員に対する接遇教育や、案内資料の整備、ミーティングを通じた意思統一などにより来館者への平等で均一なサービスの提供に努めた。 ・車椅子で来館の方は介助者と来館されるため、職員は介助の妨げにならないよう配慮した。障がい者が使いやすい共用トイレがあるので、トイレ使用目的の方も多く、公共施設としての役割を果たした。 ○自主事業の展開 ・市との共催も含め、施設の特色を生かし、目的に沿ったイベントを重点に計画し、研修室を利用した児童向けの「手作りに挑戦」や大人向け有料講座「考古学講座 歩いて学ぶ考古学講座」など各種イベントを年間計 27 回開催した。 - 夏休み期間中の「資料館たんけん隊」は 1,028 人、博物館実習生と協力して実施した「草木染づくり」では 100 人の参加があった。 - 全 4 回実施した「手づくりに挑戦」（参加者 269 人）は、すべて職員が開発したものを手づくりで準備しているのが大きな特徴である。 ・歴史講座「歩いて学ぶ考古学講座」は 4 年目を迎え、1 回の座学と 11 回の大阪府内と奈良県・滋賀県での現地学習を実施した。（参加者延べ 340 名） ○情報提供 ・資料館のホームページにて、施設の紹介や催し物その他諸情報について、親しみのある表現で最新情報の公開に努めた。 ・ポスター及び市の広報紙で催しの案内を掲載し、広く市民の方々にお知らせすることにより、来館者の誘致を図った。 ・各小学校（7 校）に案内状を配布し、施設活用の PR に努めた。小学校 3 年生については、全 7 校と近隣市 1 校が来館して「昔の暮らし」学習を行い、今年度も暇古文化研究保存会の協力を得て昔の道具に触れる学習を実施した。 ・こども歴史「わたしたちの四條畷」と大人版歴史「歴史とみどりのまち ふるさと四條畷」の資料館内での販売も継続した。 ○安全確保対策 ・常に会社と連絡をとり、業務フロー、緊急連絡先等の掲示と、ミーティングを適時実施し、常に状況に合わせた管理運営に努めた。特に安全面の注意事項は文書で確認し、注意を払っている。火災消火訓練・消防署通報訓練及び緊急時の避難訓練は毎年実施している。 ・災害の際、弊社の緊急ネットワークが機能するよう緊急連絡先の掲示などを行った。 ・トラブル発生時用の緊急連絡先及び緊急連絡対応体制の掲示を行った。ま

	た、国道 163 号沿いの弊社の部品センターによるバックアップ体制を整えている。								
維持管理状況	○ 保守点検 ・各設備の稼働状況に合わせた最適なメンテナンス計画を立て実施した。 ・職員による蛍光灯交換、機器の状況点検など職員を動員した、効果的な維持保全に努めた。 ・消防設備点検と空調設備点検を同時作業にて実施することにより、作業の効率化を図った。 ○環境保全への取り組み ・年間を通した空調温度の見直し、ＯＡ機器の適正使用、こまめな消灯の実施など、環境保全の推進と経費削減に努めた。 ・ゴミ箱の共用化、種類別の設置などによりゴミの分別と少量化に努めた。 ・紙印刷媒体を回覧して共有することで、紙の使用量を削減した。								
利用状況	今年度は、生駒ふるさとミュージアムや大阪府立近つ飛鳥博物館、大分県立歴史博物館へ教育委員会が遺物を貸し出されるなど府外からの注目もあり、市内はもとより市外からも多くの来館者があった。 来館者には、指定管理者職員の説明でゆっくりと見学していただき、四條畷の歴史を広くＰＲすることができた。また、例年どおり３年生の「昔のくらし」の校外学習で畷古文化研究保存会の協力を得て、子供たちが実物に触れる体験学習を実施した。 前年度と比較し、個人利用が増加したものの学校等や一般など各種団体の利用は減少したことから、利用者数は全体で 3.1%の減少となった。 <table border="0"> <tr> <td>・学校・保育所</td><td>728 人 (58.9%減)</td></tr> <tr> <td>・一般団体</td><td>1,803 人 (2.6%減)</td></tr> <tr> <td>・個人</td><td>6,660 人 (2.9%増)</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>9,191 人 (3.1%減)</td></tr> </table> ※開館日数 278 日 (5 日減)	・学校・保育所	728 人 (58.9%減)	・一般団体	1,803 人 (2.6%減)	・個人	6,660 人 (2.9%増)	合計	9,191 人 (3.1%減)
・学校・保育所	728 人 (58.9%減)								
・一般団体	1,803 人 (2.6%減)								
・個人	6,660 人 (2.9%増)								
合計	9,191 人 (3.1%減)								
収支状況	当年度収入 10,062,022 円（指定管理料収入:9,987,000、自主事業収入:75,022）に対し、支出 10,220,318 円、収支は 158,296 円の赤字。								

3 利用者へのアンケート調査

項 目	27年度の状況
調査の実施内容	評価委員会欠席のため、資料提出なし。
調査の結果	
主な苦情・意見等	

4 施設の評価

管理運営の総合評価	○5 ●4 ○3 ○2 ○1
講 評	アンケート調査結果の詳細については不明であるが、施設担当職員の印象からは、これまでどおりスタッフの対応や展示の解説について高評を得ていると考える。 施設の運営面では、前年度と比較して個人利用者が増加しているが、学校等や一般など各種団体の利用は減っており、利用者数は全体で 286 人の減少となった。しかし、ＨＰやポスター掲示などの広報活動などにより、市内はもとより市外からも多くの来館者があった。来館者には、指定管理者職員の説明でゆっくりと見学していただき、四條畷の歴史を広くＰＲすることができたことは、利用者増加への努力が伺える。また、例年どおり３年生の「昔のくらし」の校外学習で、畷古文化研究保存会の会員の協力を

	得て子供たちが実物に触れる体験学習を実施したことは、子供たちへ郷土の歴史・文化に触れる機会を提供するという点で今後とも継続していただきたい。 施設の管理面では、保守点検や安全確保対応など計画的な保守管理に努めた点、徹底したごみの削減や節電に努めることにより環境面への配慮も実施している点が顕著である。 収支状況は赤字となったが、収入源が少ない中で管理経費の縮減に努めていることは一定の評価をする。 以上の内容から「計画内容をやや上回るために大変努力している」と判断し、評価を「4」とする。
--	--

(参考) 評価の基準

- 5 計画内容を上回る結果 (担当部局として非常に満足できる結果)
- 4 計画内容をやや上回る結果 (担当部局として満足できる結果)
- 3 計画内容どおりの結果 (担当部局として妥当と判断する結果)
- 2 計画内容をやや下回る結果 (担当部局として不満が残る結果)
- 1 計画内容を下回る結果 (担当部局として非常に不満が残る結果)